



10月から再スタート！～少しずつ通常の学校生活に戻ってきます！～

朝夕にさわやかな秋風の吹く季節となりました。本日から10月。10月は旧暦では「神無月」といわれます。これは、この月に全国の八百万（やおよろず）の神々が出雲に集まり、村に神が不在となるためです。逆に神様が集まる出雲では、神在月と呼ばれるそうです。面白いですね。

さて、学校再開により感染拡大が懸念される中で9月がスタートしましたが、保護者の皆様のご協力により、本校においては学級閉鎖等の対応を取ることなく、9月を終えることができました。ありがとうございました。全国的にも新規感染者数が少なくなり、昨日まで出されていた緊急事態宣言も解除となりました。そこで、10月からは過日配付しました「今後の本市立学校の教育活動について」（市教育委員会発出）に基づき、部活動をはじめ、一部の制限を解き、教育活動を進めてまいります。しかし、この冬にはまた再び「第6波」が訪れる予想も出ております。学校でも引き続き緊張感を保ちながら、感染予防対策を継続してまいりますので、ご家庭でも感染防止対策の徹底及び日々の健康観察について、引き続きご協力をお願いいたします。

「おはよう」の挨拶から始まる一日！

健康観察を昇降口で実施するために時差登校となった9月。毎朝、先生方も学年ごとに笑顔で子どもたちを出迎えてくれました。私も正門と東門に立って生徒一人ひとりと挨拶を交わす毎日を送ることができました。元気よく笑顔で挨拶をする生徒、うつむき加減で小声で挨拶する生徒、恥ずかしそうに会釈だけする生徒、素通りする生徒、人それぞれです。私よりも先に挨拶をしてくれる生徒に出会うと、とてもうれしくなります。また、いつもは元気よく笑顔で挨拶してくれる生徒に元気がないと、「どうしたのかな？」「何か嫌なことでもあったのかな？」とったりもします。大人でも日によって気持ちも異なるので、毎日笑顔で挨拶することができないのも当然かなと。だからこそ学校で友達や先生と関わり合う中で元気になってくれたらと願っています。そんな生徒の様子を見ることができただけでも私にとっては、大変有意義な1ヶ月でした。

さまざまな学校行事について

過日配付しましたプリントでお知らせしたとおり、文化部発表会と合唱祭は中止となりました。（合唱については今後、学年ごとに検討いたします。）学校行事は“ひとつになれる”力（共生・協働）を育む貴重な機会です。新型コロナウイルス感染拡大のため、そうした機会を子どもたちに提供できないことはとても残念です。特に文化部の3年生にとっては最後の晴れ舞台を設けることができず、大変心苦しく思っております。今後は各部で“区切り”の場を考えていく予定です。

3年生の修学旅行については、新型コロナウイルス感染症における新規感染者数も全国的に減少傾向にあるため、現時点では10月18日から2泊3日で行く予定です。しかし、報道等でもここ最近の感染拡大の要因として挙げられているのが家庭内感染です。3年生には1、2年生に兄弟姉妹がいる生徒も多くいます。学校でも感染予防対策を徹底してまいりますので、1、2年生のご家庭にもご協力いただき、3年生の卒業アルバムに最高の笑顔で楽しんでいる修学旅行の写真が一枚でも多く残すことができたらと願っています。

まもなく前期終了、あと10日余りで後期が始まります！～生徒の皆さんへ～

10/8（金）に今年度の前期が終わります。サッカーの試合で言えば、前半終了です。私はサッカーの試合で審判をしている時に大切にしているのが、ハーフタイムです。試合が始まる前に自

分が立てた目標が実現できているか、課題はなかったか、などを振り返ります。その時に私が心掛けていたのが、他の副審に自分のパフォーマンスがどうであったかを聞くことです。そして、課題解決のための手立てについてアドバイスをいただきながら、自分自身で考えます。また、このハーフタイムでもう一つ意識していることが、気持ちの切り替えです。特にできが悪いときは気持ちをリセットして「終わったことをくよくよ考えていても仕方がない。これから始まるんだ！」と言い聞かせて、後半に臨みます。皆さんも、この機会に前期を振り返り、4月に立てた『今年度の目標』がどの程度達成できているかを振り返り、後期に向けて学校生活の改善を図って欲しいと思います。まずは前期に取り組めなかったことにチャレンジしてください。

便利の中に潜む危険性～学校・家庭でできること～

東京都町田市で昨年11月、小学6年の女子児童が、学校で配布されたタブレット端末のチャットを利用したいじめを受けたと訴える遺書を残して自死しました。報道によると、その児童の学校では端末利用に必要なパスワードも共通で、個別のIDも簡単に推測できるものだったようです。

現在、各学校では国の「GIGAスクール構想」に基づき、1人1台の端末が配備されましたが、このコロナ禍でオンライン授業等を活用した学習指導が加速度的に求められています。本校でも先月より必要な生徒に対して授業のライブ配信等を試行しておりますが、まだまだ課題が多いのが現状です。これからも教育委員会と連携しながら、先ほどのような事件等が起きないように、生徒に対しても端末の使い方や利用上のルールを含めた指導を徹底し、ICTを活用した学習指導を徐々に進めて参ります。しかし、学校の指導だけでは十分とは言えません。今後は学級閉鎖等の臨時休業があった場合に学校で配付された端末を持ち帰るケースも出て来ます。先日、学校から市教育委員会で作成した「ICTを活用した教育活動における個人情報の取扱いに関する同意について」というプリントを配付いたしました。よくお読みいただき、承諾書の提出をお願いしております。この機会に日常的に多くの子どもたちが利用しているスマホやタブレット等の使い方についても目を配っていただければ幸いです。

かつて携帯電話が普及する前は一家に一台の「黒電話」でした。子どもに掛かってきた電話でも親が出で、「〇〇ちゃんからだよ。」と、子どもに取り次いだものです。そのため、保護者が自分の子どもがどんな友達と交流があるのか、どんな関係性なのかも把握する機会がありました。しかし、携帯電話が登場すると、便利さが増す中で、電話は「個」のものとなり、「孤」にもつながっています。子どもたちが普段利用しているSNSも手軽に便利な情報を入手できると同時に、少し油断をすると不特定多数の非難・中傷にさらされる危険性もあります。先の東京オリンピック・パラリンピックでもSNSでの誹謗・中傷に苦しめられた選手が少なくないと言われています。言葉は「力」にも「刃」にもなり得ます。冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句は典型的な“いじめ”です。学校でも道徳の授業等を通して生徒に考えさせていきたいと思っておりますので、ご家庭でも折に触れ伝えていただきたいと思います。

先日、横浜市西区の県立青少年センターで2021年度の「中学生の主張inかながわ」が開催されました。報道によると、その中で最優秀賞に選ばれた生徒は『心の石』と題して、SNSなどでの誹謗中傷に心を痛めている思いを次のように伝えていたとのことでした。

スマートフォンの操作一つで人を傷つける言葉がたやすく発信され、ときに人の命を奪ってしまいます。だから、発信前に立ち止まって考えることが重要です。うれしい思い、温かい思いがみんなの“心の石”に刻まれてほしいです。

東京オリンピック・パラリンピックでは多くのボランティアの方々に対して海外からも「ARIGATO」の言葉がSNSに投稿されたようです。便利な世の中になっても、変わらずに相手の気持ちを考えた温かな言葉が交わされる社会となるよう学校でも取り組んでいきたいと思っております。